プロ柔道の可能性と日本柔道の進むべき方向性に関する研究

西澤　歩唯　（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　村田　正夫

キーワード：柔道，プロ，学校柔道

１．　緒言

柔道は,日本で 1882（明治 15）年に嘉納治五郎師範が柔術を集大成し, 心身の教育システムとして発展させた. 第二次大戦後は国際的普及に伴って柔道競技の盛行という現象を生み出している.

また 1950 年代において, 柔道のプロ化を企画し動き出した時期があったが, 一年も持たず, 解散となった歴史がある.

しかし, 現在ランキング制度の導入や賞金制度を行っている今日の柔道は, 再びプロ化への動きを模索しているものと考えられる. また現在の日本では, 野球やサッカーと言った人気スポーツがプロとして盛隆しているが, 柔道は日本のお家芸でありながらも人気スポーツであるとは一概には言えない. このようなことから, プロの世界が競技の人気を左右しているのではないかと考えられる.

そこで本研究では, 現役の大学柔道選手のプロに対する意識を調査し,プロ柔道の可能性を探りつつ, これからの日本柔道の方向性を見出し, 今後の柔道の普及について示唆することを目的とする.

２．　研究方法

本研究の調査対象は, 関西学生柔道連盟に加盟している全日本学生優勝大会出場の常連大学の現役柔道部員, 大学１年生～4 年生までの男女約 120 名を対象とし,アンケート調査を実施した.質問は全 36 項目で, 選択回答形式とした.

３．　結果と考察

１）卒業後の進路比較

調査した大学生の約８割が警察官や教員などの公務員を卒業後の進路に考ており,総合格闘技などのファイトマネーの出る競技をしたいという者は少ないことが明らかとなった. また柔道でお金儲けを考えている者は少なく, 安定した職を考えている者がほとんどであることから, 柔道を職にしたいと考える人は少なく, 現時点でのプロ化は難しいと言える.

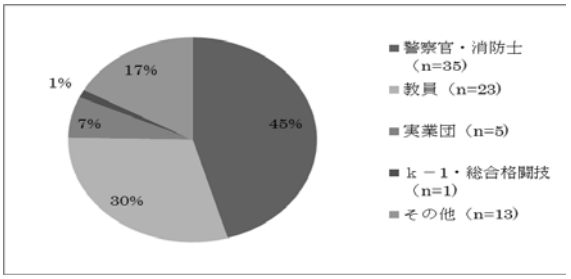

図１.卒業後の進路比較

２）今後の日本柔道

柔道の良さである「礼儀や人間形成に繋がる武道の精神を学ぶ事が大切である」という意見が多いことから,柔道は学校や市や町の道場で人間形成を目指す教育として繁栄していくことがベストではないかと思われる.

４．　まとめ

本研究で, 日本におけるプロ柔道の可能性は低いと言える. しかし, ランキング制度には賛成している者が多いものの, そこからプロ柔道を意識する者は少ないことが現状となっている. また, 今後の日本柔道は, 柔道の良さを伸ばし, 学校柔道や市や町の道場で繁栄していくことがベストであると言える.

引用・参考文献

・藤堂良明（2007）「柔道と歴史と文化」不昧堂出版

・塩見俊一（2008）「戦後初期日本におけるプロレスの生成に関する一考察－1950 年代におけるプロ柔道の展開に着眼して－」